

本資料は、報道関係者を対象としています。医療現場や一般の方々を対象とした医学的な情報提供や、プロモーションが目的のものではありません。なお、これらの資料は配信時当初の情報が掲載されており、最新の情報が反映されているとは限らないことをご了承ください。

報道関係各位

2026 年 1 月 9 日

サノフィ、患者団体交流の場「いいひふフォーラム」を開催 ～皮膚疾患を世界の公衆衛生の優先課題とする WHO 決議を受け、 患者さんとともに考え、行動する場として～

サノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:岩屋孝彦、以下「サノフィ」)は、2025 年 12 月 13 日(土)に「いいひふフォーラム」を開催しました。

2025 年 5 月 24 日、スイス・ジュネーブにて開催された第 78 回世界保健機関(WHO)年次総会において、「皮膚疾患を世界の公衆衛生の優先課題とする」決議が加盟国によって正式に採択されました。世界では 20 億人以上が皮膚疾患を抱えており、患者さんの生活の質に深刻な影響を及ぼしています。この現状を踏まえ、包括的なケアの改善は、早急に取り組むべき重要な課題であることが強調されています。

サノフィは、この採択を「患者さんとともにアレルギーや皮膚疾患について考え、行動を起こすスタートライン」と位置付けました。専門家による講演に加え、患者団体の皆様が経験や想いを積極的に共有し、交流を通じて新たなネットワークを築く場とするため、今回のフォーラムを開催しました。

「いいひふフォーラム」の内容

患者団体として国際的に活動する Global Allergy & Airways Patient Platform(グローバル アレルギー アンド エアウエイズ ペイシエント プラットフォーム) President & CEO の Tonya Winders(トニーヤ・ウィンダース)さんと、佐賀大学 医学部 分子生命科学講座 アレルギー学分野 教授 出原賢治先生にご講演いただきました。その後、患者さんや患者団体に関わりのある方同士で意見交換をするワークショップを実施しました。

【開催概要】

名称:いいひふフォーラム

日時:2025 年 12 月 13 日(土) 10:00～14:40

会場:主婦会館 プラザエフ 9 階「スズラン」

〒102-0085 東京都千代田区六番町 15

開催方法:現地開催(一部配信あり)

主催:サノフィ株式会社



【プログラム】

開会挨拶 落合 利穂(サノフィ株式会社 渉外部 部長)

講演 1 Global Allergy & Airways Patient Platform President & CEO Tonya Winders さん

講演 2 「かゆみとその機序」佐賀大学 医学部 分子生命科学講座 アレルギー学分野 教授 出原 賢治 先生
ワークショップ

【ワークショップ 参加患者団体と参加者】

アレルギーを考える母の会 (<https://hahanokai.org/>)

大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル - Smile・Smile (<https://sayamasmile.jimdofree.com/>)

天疱瘡・類天疱瘡友の会 (<http://site.wepage.com/tenpousou-ruitenpousou>)

日本アトピー協会 (<https://www.nihonatopy.join-us.jp/>)

日本アレルギー友の会 (<https://allergy.gr.jp/>)

ピアサポート F.A.cafe (<https://www.facafe.org/>)

慢性特発性蕁麻疹患者さんと保護者様

冒頭、サノフィ渉外部 部長の落合は、「患者団体の方々が対話やディスカッションを通じて、考えや思いを共感しあい、できることを考える場を作りたい」「本日のディスカッションが『いい皮膚、いい人生』につながってほしい」と期待を語りました。続いて行われた講演 1 では、トーニャ・ウィンダースさんが、グローバルな患者団体ネットワークの概要と患者団体と産業界との連携の現状と課題について説明しました。講演 2 では、佐賀大学 医学部 分子生命科学講座 アレルギー学分野 教授 出原賢治先生が最新研究成果を紹介し、アトピー性皮膚炎の発症メカニズムやかゆみと 2 型炎症の関連を解説しました。

ワークショップでつながり、交流し、想いを共有

6つの患者団体 11 名と個人 2 名がワークショップに参加しました。2つのグループに分かれ、「皮膚疾患(あるいは慢性疾患)と生きる“ままならなさ”と“つながる”ことで生まれる力」について意見を交わしました。このフォーラムを通じて、患者団体同士のつながりが深まり、課題や困りごとを共有できたと明るい声が寄せられました。



内側からこう湧き出てくるようなかゆみ
治療の進行、治療の効果、治療期間がわからず不安になった 患者って孤独
かゆみで何も手につかない、集中できず、社会生活、仕事にも差し障っている
かゆいだけじゃないよね、主治医としか自分のつらさを共有できない
皮膚症状って見た目では差別されやすい 医師も患者の疾病負荷がよく知らなかったりするんですよ
新しい治療情報が受け取れず、古い治療のままの方がいい
忙しいと治療に連れて行けない 出会った医療で人生が翻弄されちゃう
行政に聞いても、医療に聞いても、なかなか正しい情報にたどり着けなかった
慢性疾患なので、自分が知識を持って治療していかないといけない
正しい知識が普及しなくちゃいけない 学校も、もうちょっと理解があるといいな
夜、思春期の子が行けるような時間帯の診察があったらいい なんてその程度で学校休んじゃうの？ みたいな感じ
中高生が学校を休むと成績に影響して、進路にも影響が出る 仕事と治療の両立も職場の理解のもとでできるとすごくいいなと思った
アレルギーポータルがあるのに、みんな知らないんですよ 専門医が少ない
医療費は職場の健康保険でだいぶサポートされているので、助かった 実際何に困ってるのかをコツコツと広めていくしかない
症状をコントロールできれば、取り残されることなく社会で活躍していける
まず声を上げないことには、どうにも変わってもいけない 当事者が声を上げないと、寄り添う支援になっていかない
伝える努力、わかってもらおうっていう患者側の気持ちも大事だと思う 助けが必要だったら自分からも声を上げてみようと呼びかけている
患者と主治医だけでなく、あと社会、この三つをつないでいきたい

<フォーラム前の参加者の関心事項やこれまでの経験についての思いや言葉>

サノフィは、皮膚疾患に苦しむ患者さんとそのご家族のために、今後も啓発活動や、疾患や治療に関する最新情報の発信に努めてまいります。

サノフィについて

サノフィは、研究開発型の AI を活用したバイオ医薬品企業であり、人々の暮らしをより良くし、力強い成長をもたらすことに尽力しています。免疫科学領域の深い知見を活かし、世界中の何百万人もの人々の治療と予防を行う医薬品やワクチンを提供し、さらなる貢献のために革新的なパイプラインの構築にも注力しています。「人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求する」という使命のもと、医療・環境・社会が抱える課題に真摯に向き合い、社員と国や地域社会にとって前向きな変化を生み出すことを目指しています。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<https://www.sanofi.co.jp/> をご参照ください。